

実践！

花嫁修業

夜のトロあま

親友ゴメン！
お前の妹
いただきます

理想のお嫁さんを目指して
昼も夜もえっちに励みますー!?



おおかわななね
大川七音

俺を『お兄ちゃん』
と呼ぶが、
実や義理の兄妹
ではない

単なるお隣同士
幼なじみだ

何だよ…
相談って

花嫁修業の
練習台に
なって



お兄ちゃん

相談が
あるんだけどっ！

今度は…

家事とかは
一通り
お兄ちゃん
で試したから

この『お兄ちゃん』は
彼女の実の兄、
大川和彦^{かずひこ}を指す

俺と同一年で、
いわゆる親友だ



今度はその…
夜の花嫁修業
っていうか…

こんなことを
頼めるのは
お兄ちゃんしか
いないの

お願いっ！

七音の剣幕に負け、
俺は『花嫁修業』を
手伝うことにした

それじゃあ…
さっそく始めるね









感じたり
なんか…

イクわけ
なんて…

んああ…
お兄ちゃん…

んっ…

ジャク
ジャク

ドクッ
ドクッ

んくう

グ
グ
グ

はあ

はあ

お兄ちゃんの
前で…

ハモ

フキ

ハモハモ

…んああああ
あああああっ!!

プ
ニ
ヤ
ア
ア



恐る恐る
モノを握る七音

ごめん、
痛かった…？

いやッ
…気持ち
よくって

…ふっ

ぎゃー

うう…ッ

こうやって
握ってみると
見た目以上に
もって
すごい……

七音の
可愛らしい顔が
ほんのりと
紅潮している

べ、別に……
興奮とかして
ないんだから

こすって…
気持ちよく
してあげる

うっ……
くっ……
ううう…

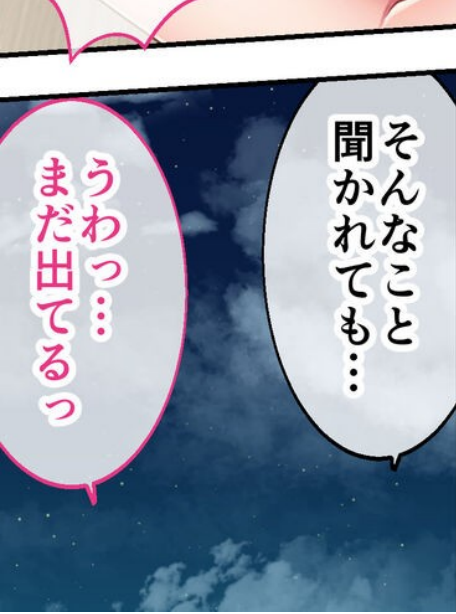
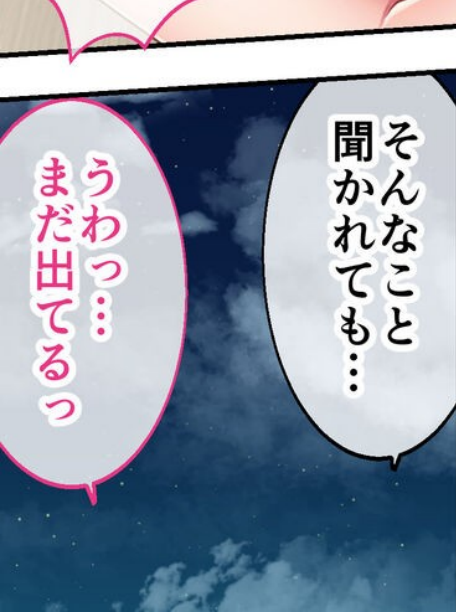
自信は
あるの

動画でばっちり
予習したから…

ぎゃー

痛かったら
言ってね

花嫁修業だから、
仕方がなく
触ってるだけ
なんだからっ！



翌日――

聞いたぞ

大川和彦

俺の親友かつ、
七音の実の兄だ

部屋で七音と
二人きり
だったそうだな

べ、別に……
特に変わった話は
してないぞ

和彦は重度の
シスコンだ

昨日の出来事を
バカ正直に
言えるはずもない

……
くれぐれも
七音には
手を出すなよ

お、おう……

和彦も居るとき
七音は俺を
『田中先輩』と呼ぶ

今日の夕飯
何がいい？

私が作るよ

七音が
作ってくれる
のかあっ……!!

あっ
お兄ちゃん

……と
たなか
田中先輩――

大川家の両親は
仕事で忙しく
家に居る姿を
あまり見なかった

おおっ！

どうした
七音ッ！

……ウチも
今日は
親が居ないん
だ

夕飯
どうしよう
かな――

どんぱーん

お兄ちゃんも
今日は
ひとりでしょ？

晩ごはん
作りに来たよ

七音

のいかい？

ウチの分はもう
作り終わったから

台所
借りるね

花嫁修業の
成果を
見せてあげる

田中家と大川家は
家族ぐるみで
付き合いがあり

七音が家の台所へ
入ることも
珍しくない

もちろん
夜の方も――

……
何を作って
くれるんだ？

なっ

その
カッコ…!?

ふふん

新妻の定番、
裸エプロンよ

これも…
花嫁修業の
一環だから





七音…っ
もう
出そうだ…

えプロン
に…
乳首…
こすれて…
んあ…

いいよ
出してえ!

ひっ…
あぁ…
ひぁぁ…

ビュルル
うっ…
くううっ!

べ、別に…
興奮とか
してないから
花嫁修業だから、
仕方なく
なんだからっ

あそこも、
うずうず
なんて…
していいん
だから…

お兄ちゃんのが
…背中…
背中…
ドロドロに
されちゃってる…
お兄ちゃんの
精●で…
ハッ

…ご飯の次は、
お風呂でしょっ！

コレも
洗わなきゃ
いけないし…

先に入ってて！

七音に
促されるまま
浴室に入り、

椅子に腰かけて
身体を
洗っているー

湯加減は
どう？

カ
ラッ

七音ッ!?

背中、
流してあげる

タオル
じゃなくて

私の胸で…

これも…
花嫁には

フリッ

必要なこと
だから…

七音の胸が…
俺の背中に…!!

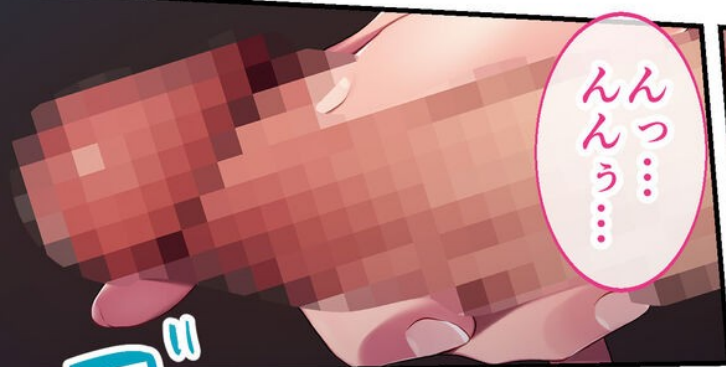
うっう
……ッ！

更にー



こ、
こう
すれば…

背中とあれを
同時に
洗えるでしょ…



んっ…
んっ…
う…



そ、
そうだな…

勘違い
しないで
よ

これも全部
修業のため
だからっ！

わかってるよ
『花嫁修業だから』
だろ

身体と腕を
同時に動かす奉仕は
難しいらしく、

七音は俺の身体で
ぎこちなく
練習を続ける

んっ…

ゴシ

少しづつ、
上達していくのが
感じられた

どう…？

最初より…
良くなったと…
思うけど…

よかった…

お兄ちゃんも
気持ち
良いんだ…

背中
で乳首が
こすれて

気持ち
よく
なつて

あそこ
まで
うず
うず
して
き
ち
や
う
な
ん
て…!!

んっ…

すごく…
気持ち
いいよ

『も？』

ちっ、
違
う
か
ら
う

別に…
私
は
!!

スリ

スリ

う
う
う
く
っ
う
…

ズリ

ズリ
ズリ
ズリ

そんな
に
強
く
さ
れ
る
と
っ

ビュルルッ

ひ
ゃ
っ
!

2
回
目
な
の
に
す
ご
い
勢
い
…

あ
あ

あ
あ

そして翌日—

和彦の帰りがと、
遅くなるからと、

七音の部屋に
呼ばれてしまった

お兄ちゃん

今日は…
舐めっこ…
…しない？

んんっ…
んんうう…

んあ…
んううう…

今日の
七音は—

大人っぽい下着を
まとっている

—男を
誘惑するための

はああっ
ああ…

これが…
お兄ちゃんの
味…

はああ…
んっ…

キュー

あんっ…

これが…

七音の
あそこ…

陰●を舐めたり
女穴へ舌を
差し込むたび、

七音は甘い喘ぎを
漏らしていく

…あっ…
ああんっ…

そこお…
いい…

お兄ちゃんに
してもらって…
気持ちいいっ！

彼女のそこは、
淫靡にひくつきながら
蜜を湧かせ続けた

肉芽は
ふっくらりと
ふくらみ、

包皮を剥けた
返らせていた

そこを唇で
ついばんでやるとー

はあああ!!
…あああ…
…あんっ

そこは…
…んはあっ！

私も…

お兄ちゃんを
もっと気持ちよく
してあげないと…

自らの快楽に
駆り立て
られるように

七音の奉仕が
激しくなる



最後まで
…して

…いい
のかい？

七音が
そこまで言うて
くれるなら…！！

俺も
初めてだけど
…がんばるよ

…初めて
だけど、

お兄ちゃん
になら…

きて…
お兄ちゃん…！！

七音…！！

濡れそぼった
秘所へ剛直を
あてがう

痛かったら
言うんだぞ

あんっ…
あううう…ッ！！

うん…っ
ううう…

それが
どれほどの
痛みなのかの
俺には
想像もつかない

ズブ…ッ



女の子なら、
誰でも一度は
経験する
ことだから…

平気だよ…

これで、
大人の女に…
花嫁に、一歩
近づいたのね…



俺にできるのは、
ゆっくりと
慎重に動くこと
だけだった

ご、ごめん
大丈夫か？



動いて…
いいよ

私は、
大丈夫だから

……
わかった



顔を
しかめながらも
七音はどこか
誇らしそうに
つぶやいた

…よく
頑張ったな

偉そうに言う俺も、
『大人』に
なったばかりだ
達成感と高揚感で、
俺のモノは荒々しく
脈打っていた



くっ…

んうう…

ううう…

気持ちいい

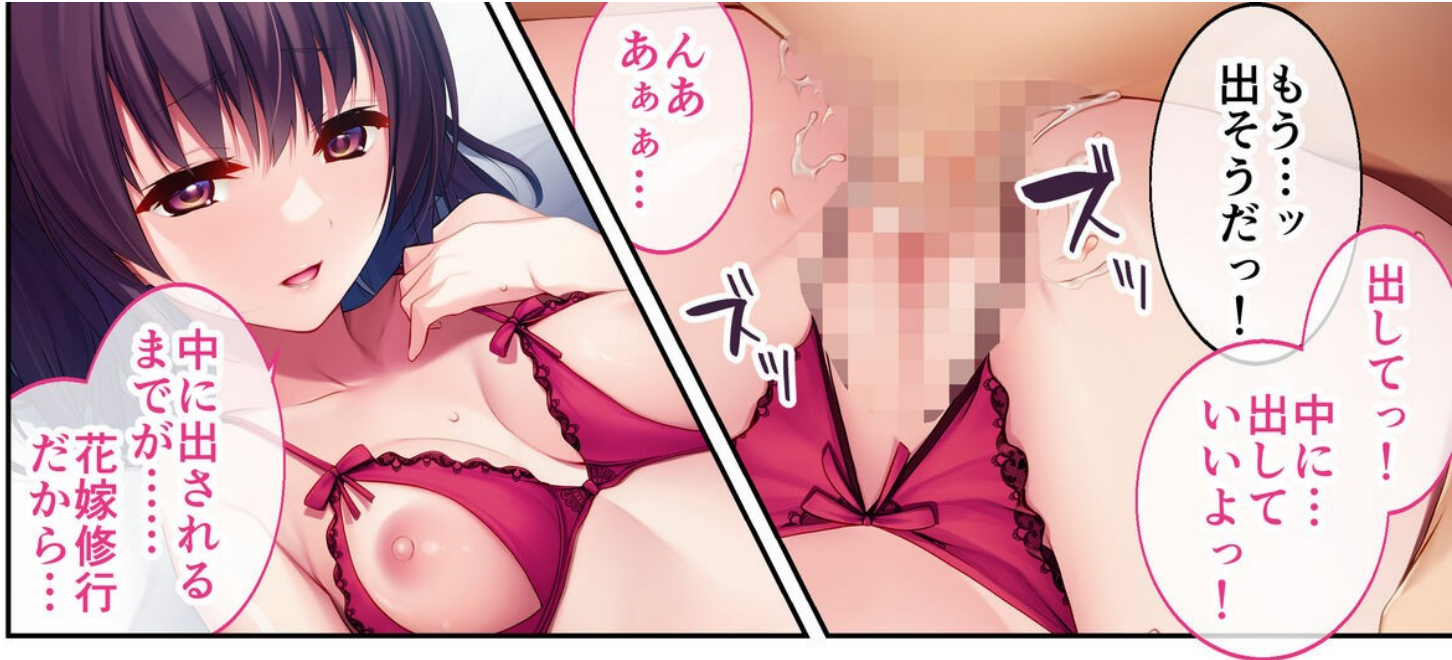
んんう
はああ…

んっ…

気持ち
良すぎて

腰が
止まらない…！

んはああ
……



翌日の
放課後—

本当に…
ここで
するのか？

お兄ちゃん
だって

興奮してん
でしょ？

私も…興奮
しちゃって
るの……

早くしないと
誰か戻って
来ちゃうかも

そ、
そう
だな……

んっ…
んあぁ……

あああ…
…んううう

その言葉に
俺は腰づか
いを、
激しく

いいっ…！

あそこが…
気持ちい
いのぉ…

んんう…
あぁっ…

はぁあ
んっ！

はぁあ
あっ…

もう少し…
激しくして
も大丈夫…
かも…

んはあ
あっ!!

お、おい
七音…っ

あまり
大きな声を
出すなよ…!!

廊下まで
聞こえるだろ!

激しく
動いて
いるの
は
俺
だ
が

だって…

お兄ちゃん
の
気
持
ち
よ
く
て

あああ…
んっ…

もっと…
…して…

わたし…

イケそう…
なの…

そんなことを
言われては、

俺
の
中
の
牡
が
奮
い
立
っ
て
し
ま
う

んうう…
はあ…

あっ…
はあ…

ああっ

声を聞かれたら
まずい…
ハズなのに

もっと声を
上げさせたくなる

んんう
…っ!!



あああああ
あああああ
あつ!!



すごく...
気持ち
よかった...

はああああ...
ああああ...
んあああつ!

教室で...
するの...
いいかも...

それほどの
大きさを
だつた

これは廊下まで
かもしれない

七音...

それじゃあ…
場所を変えましょ

できる
でしょ？

えっ

まだ
やるのか？

それは、
まあ…

『花嫁修業』に
ぴったりな
ところがあるの

こ、こゝで
するの…!!?

神様に
怒られそう
だけど…

大丈夫

神様は
男女の色恋には
大らかなものよ

そういう
ものか…？

んっ…
んうう…!!

お兄ちゃん…

『花嫁修業』
…しよ…



夫婦生活の
マンネリを
解消するの…

見られる
つかもしれない
ってスリルがい

んっ…
んっ…
う…



んあ…
あ…
あ…
っ…
!!

んっ…
はあ…
あ…

あ、
あんまり
大声
出すなよ…



…ああ、
その通りだ

すごく
固くなって、
びくびくって
跳ねてる…

お兄ちゃん
だって…
興奮してるん
でしょ…?

ズキ
ズキ



最初は…
こんなのに、
無理いつて
思ってたけど…

今はあ…
んっ…

ああ…
はあ…

七音が
気持ちよくなって
くれてるなら…

…俺も
嬉しいよ…

お兄ちゃん
のでっ…

イキそうっ!

いきそう…

あっ…
ああ…

いくっ…
いくっ…

ズキ
ズキ

うっ…
くっ…

んあああ
あああ
あつ!!

うん

私たち…
外で
しちゃったん
だね…

そう、
だな…

七音を絶頂に
導いたことで、
俺も男としての
自信を得ていた

花嫁に
近づいたわ…

これで…
また一歩、



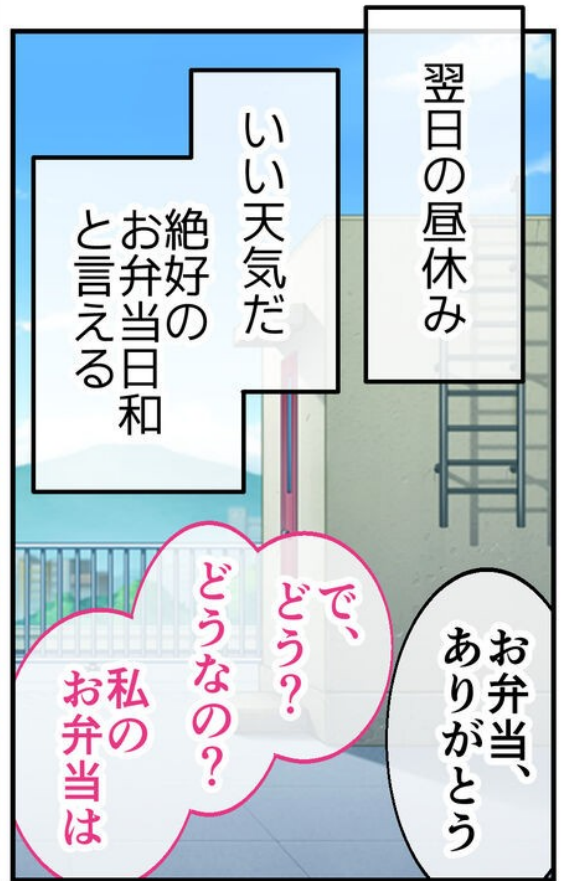
うん、
おいしいよ

きつちりと
基本を抑えている
感じがする

お昼の
『花嫁修業』も
きつちり
やってるんだから

ふふんっ！

当然よ



翌日の昼休み

いい天気だ

絶好の
お弁当日和
と言える

お弁当、
ありがとう

で、
どう？

どうなの？

私の
お弁当は



俺は空腹感に
突き動かされるがまま、
弁当箱を空にした

空腹が満たされると、
今度は眠気が襲ってくる

ごちそう
さま

思わず
あくびが出た

：膝枕、
して
あげよっか

えっ
いいのか？

眠くなった花婿にも、
膝枕してあげるのも、
花嫁の役割だから

じゃあ、
ちよつと
失礼して…



いや、本当に
おいしいよ

作るの
大変だった
だろ？

べ、別に……
それほどでも



俺は身を横たえて
七香の太腿に
頭を乗せる

女の子の……
太腿……
これほど
嬉しいことは
ないっ！



お兄ちゃん、
何してるのよっ！

ちよ、
ちよっと、



……さっきまでは
本当に
眠かったのだがー

フルッ



いやー、
膝枕して
もらったら

別の欲求が
湧いて
きちゃって……

も、もう……
お兄ちゃん
ったら

いやらしいん
だから……

そう言う
七音は
されるがまま

手を払い
のけようとは
しなかった

だったら……



んっ
……
や、
やめてよ……

んう……
あ……

ちよつと
お兄ちゃん
こんな
ところで……



ひゃっ！

ズボッ



誰か来たら
すぐに
止めるから

大丈夫

誰かに見られ
ちやったら……

スカートの
指先を
俺は欲望の
ままに
蠢かせる



……濡れてきた
みたいだけど？

しよ、
でしょうがない
でしょ……

お兄ちゃんが、
いやらしいこと
してくるから……

あんっ……

そこっ
はあ……



だからって……
こんなところで
……んっ……

はああっ！
……んっ……
んくうう……

時には
上部の突起へ
指の腹を押し当て

くりくりと
こねまわしてやる

さす

さす

俺の指で、
感じてくれている

そのことが
嬉しくて、

すり

お兄ちゃん
に……

こんなこと、
されたら……

やっ……
んあっ……

俺は一層熱心に
七音の女唇を弄ぶ

すり

はあ……
あっ……

はあ……
あっ……

んう……

んはああ
ああああ……!!

ゲチュ

ゲチュ

ムクッ



べ、別に……
わたし、
いつてない、
から……

お兄ちゃんに
悪戯されて、

イったり
なんて……

してないん
だから……!!

それ
じゃあ

きちんと
イかせて
やらないとな



ちょ、
ちよつと、

お兄
ちゃんっ

……
恥ずかしい
よ……

……
こんなの

校庭から……
丸見え……だし

んっ……
うう……

俺の手は、
七音のお尻側から
スカートの中へ
もぐり込んでいる

花婿が
こういうの
好きかも
しれないだろ

これも立派な
『花嫁修業』だ

いや、単に俺が
好きただけだが

ああ……
恥ずかしい
よお……

七音だって、
感じてるんだろ？

布地の上から
突起を探り当て、

くりくりと
揉みまわしてやる

そこお……
いじられたら……

やああっ……

はああ……
あっ……

くり
くり

……声が
出ちゃいそう……

んっ……
はああ……

……あああ……

わたし……
もう……
もう……
いきそう……
いっちゃんいそう
なの……

ズキッ

気持ち
よすぎて……

……んくう……
うっ……

いわたし……
ち……
や……
つ……
た……

いーちやーた...

……お兄ちゃん、
出してないでしょ

フアスナーが
壊れそうなほどに、

俺の局部は
制服のズボンを
突き上げていた

物陰でなら……
入れているよ……

せっかくだから
ここでして
もらおうかな

えっ

ここで……？

そんな……
見られちゃう……

心配するな

七音を後ろから
そっと抱きしめる

そして——

ぐっ





もう少し
……動くぞ

あんっ……

そ、
そんなに……

お強く
されたら……

本当に
声がつ

声が……
出ちゃう……!!

んくっ……

ブッ

ブッ

ブッ



ブッ

ブッ

少し動くぞ

ちゃんと声
我慢しろよ

んっ……
んんう……

んはあ……



お兄ちゃんの……
いいっ……

声……っ

出ちゃう
そう……!!



校庭の運動部に、
七音の知り合いも
いるんじゃないか？

ひゃっ……!!

耳元で囁くと
七音の肩が、
小さく跳ね、

ナカも
ひくひく
締めつけ
強くなるが

ばば、
か……

恥ずかしいこと
……言わないでよ……

恥ずかしいけど、
興奮するだろ？

…俺も
そうなんだ

あっ……
ああ……

そんなに
激しく
されると……

わたし……
んんう……

ううう……

ゴッ

ゴッ

くっ……
んあああ……

んはあああ
あああああっ!!

お兄ちゃんのが……
わたしの中に……

あそこの
奥に……

ビュルルル

こんなところで
されたのに……

わたし……
イっちゃった……

放課後、
俺の自室――

言われた通り……
着てきたよ……

お兄ちゃんって
こういうのが
好きなの……？

七音が
制服を脱ぐと、
体操着にブルマー
の姿になった

…花婿が
こういうの
好きかも
しれないだろ

俺の趣味
なのだ

そうだよな

見てるだけじゃ、
花嫁修業としては
不十分だよな

あっ…

あんまり
じつと
見ないで…

ううう…
なんだか…
恥ずかしいよ…

そうか
恥ずかしいか

こうすれば、
もっと
恥ずかしい
格好になるぞ

ひゃあああ
あああつ！

キュ

俺はむき出しに
なつた下着を掴み、

ぐいと
食い込ませた

こういうのが
好きな花婿だって、
絶対にいるはずだ

あ、あんまり
見ないでよ…

見るだけ
じゃないぞ

俺たちの
花嫁修行は
これからだっ

俺は左手を振り上げ
剥き出しにされた
七音の尻へー

んあ…っ！

大丈夫…
かな…？

当然ながら
加減はした

今回の
『花嫁修業』の
テーマはー

お仕置きだ

もう一度、
お尻に平手打ちする

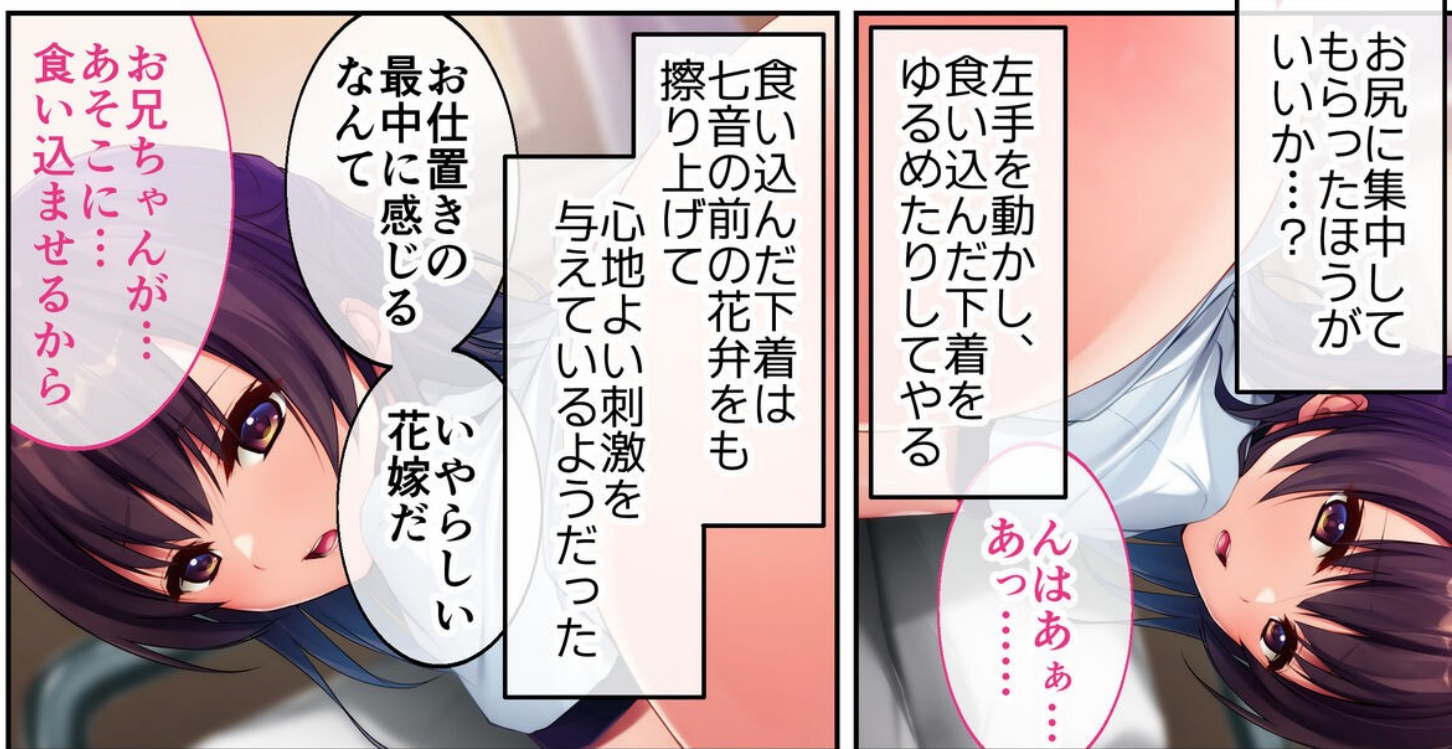


どうだ？
お仕置きの
味は

はあああつ！

お尻も
痛いけど…

お尻と…
あそこに
下着が…
食い込んで…



お尻に集中して
もらったほうが
いいか…？

左手を動かし、
食い込んだ下着を
ゆるめたりしてやる

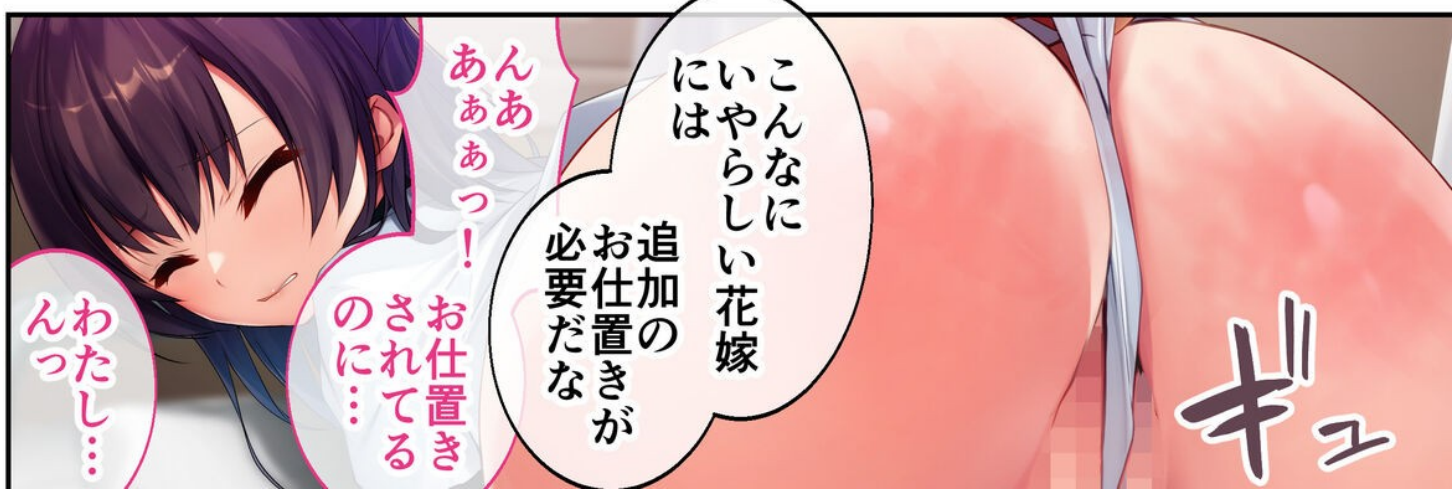
んはああ…
あつ…

食い込んだ下着は
七音の前の花弁をも
擦り上げて

心地よい刺激を
与えているようだった

お仕置きの
最中に感じる
なんて
いやらしい
花嫁だ

お兄ちゃんが…
あそこに…
食い込ませるから



こんなに
いやらしい花嫁
には

追加の
お仕置きが
必要だな

んああ
あああつ！

お仕置き
されてる
のに…

わたし…
んっ！

ギュ

グ
グ
グ

ひっ…
あぁあっ

んはあ
あぁあ…!!

グ
グ
グ

んんう…
んあぁ…

んんう…
くっ…

わたし…

お兄ちゃんに
お仕置きして
もらって…

まさか、
お尻叩きで
イっちゃう
とはな

べべべ、
別に…

いってなんか
ないからっ

だったら、
確かめさせて
もらおうか

こんな格好……
恥ずかしいすぎるよ……

あそこも……
お尻も……
見えちゃってる……

でもこれも……
『花嫁修業』だから……

お尻叩きで
お仕置きで
濡らしてないか

じっくり
調べてやる

んっ……
んあああ……

ガッ
はあああ
ああああっ!!

入れただけ
でも……
出してしまい
そうだ……

俺のものは歓喜に
打ち震えていた

うっ……
うう……

くっ……

…濡れてるな

べ、別に……
お尻叩きで
濡れたわけじゃ



んああ..
ああ..

んはああ..

『楽しみ』
っていうか..



お兄ちゃんに
してもらってるって
思ってる..

俺と
するの、

そんなに
楽しみにして
いたのか？



あっ..
あんっ..

.....修業
だから..

そうよ、
花嫁修業
だからよ..



ひっ……

あああ……
んああー

はああああ
あああああつ!!

ド
ッ

ド
ッ





それは、俺も……

今日の
こと……
体育着を
着るたび
思い出し
ちゃうかも……



あああ……
お兄ちゃん……
んっ……

どろお……

んああ……
あっ……
はああ……



ましてや、
体操服の
七音なんて
目にしたらー

思い出して
勃起して
しまいそうだ

今後は
体操服の女子を
見かけただけで



ブルマーで
興奮する花婿
……って、あり？

……どうしても、
って……
頼まれたら……

……着る

二十代後半に
なった七音が
ブルマーを
穿いている姿を
思い描いてー

俺は高ぶりを
覚えてしまう

翌朝

通学のため、俺と和彦と七音は満員電車に乗っていた

いつも通りの光景だが――

いつもと違うことがひとつ

んっ……
うっ……
んっ……

七音の股間には、繭型の淫具が入り込められている

ガッガッガッ

その振動は単調なものではなく

俺の手元から操作されている

先程、電車が発車した瞬間に『弱』振動を始めたところだ

んんう……

くっ……
んっ……

ううっ……

身動きがとれないほどの乗車率

ふう……っ

目の前には座席いっぱいのお客様

更に、すぐ隣には実兄の和彦がいる

んんう……
んんっ……

こんな状況で喘ぎ声なんて漏らしてしまつたら――



振動を強めた淫具は、
七音の秘所を
容赦なく責め続ける

だが、女の部分は
じつとりと
濡れているだろう



よく我慢
しているな

：だからこそ、
悪戯して
やりたくなる

俺は振動を
『強』にする

うつむいた顔は
紅潮しているものの
どうにか声を抑え、
平静を装っていた

んうう…
…ッ！



心の底から
心配する
和彦の前で

俺はスマホを
いじっている

淫具を操作する
アプリだ

ゲームでも、
動画でもなく



どうした
七音っ

具合でも
悪いのか？

う、
ううん…

ならば、
いいんだが…
無理するなよ

何でも
ない…

んあ…
うっ…

んんう…
んはあ…

氣まぐれに『弱』と『強』を往復させる

そしてー
淫具の振動を
『最大』にする

淫具の振動を『最大』にする

んん
んん
う……
………！

はふん
あつう
…

こいうのも
いいな……

う…ふ…う…ん…ッ
う…ん…う…う…!!

んうううー

んっ!!
うっ
ッ

な、七音っ
本当に大丈夫か？
顔が赤いぞ…？

だ……大丈夫……
だから……





顔を赤らめた七音は
階段を上り下りする

その足取りは
どこかおぼつかない

ううう……

んんっ……
んんう……

スカートを
気にしすぎだ
怪しまれるぞ

絶対に
見られたくない
のだからう

『股間の異物』を

そんなこと
言われても……



……んはあ
……あっ……

視線が……
あそこに……

また
濡らしているんじゃない
だろうな？

お兄ちゃん
の……
いやらしい、
視線が……

……スカートの
中を、
まさぐってる
みたい……

そ、
そんなわけ
ないでしょ……

んんっ……
んああ……

あっ……

電車の
なかで
いかされちゃった
のに……

また……
気持ちよく
なっちゃうなんて……



だったら、
調べてみるぞ

スカートをもくくってみろ

いいやよ、
そんなのっ！



アプリで
淫具の振動を
強くする

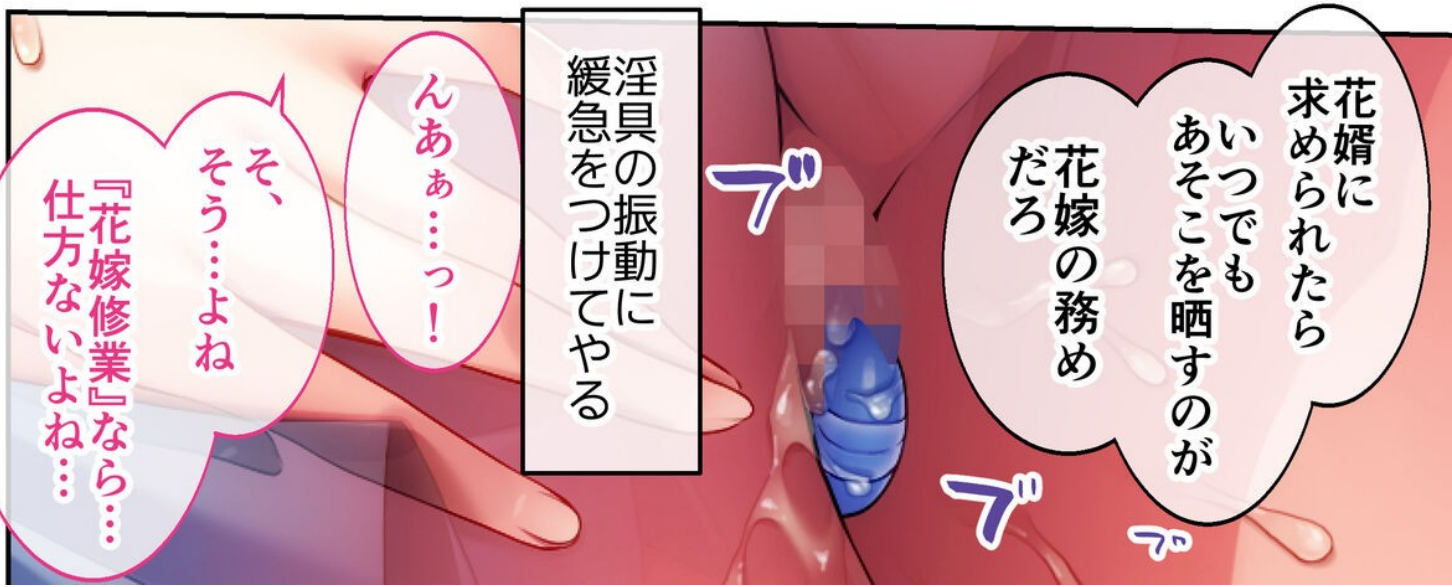
あっ…ああんっ…
そんなに…
強くしないで…っ



スカートを
まくるんだ

お兄ちゃんの…
いじわる…

七音は潤んだ瞳で
切なげに
俺を見つめてきた



花婿に
求められたら

いつでも
あそこを晒すのが

花嫁の務め
だろ

淫具の振動に
緩急をつけてやる

んああ…っ！

そ、
そう…よね

『花嫁修業』なら…
仕方ないよね…

これで…
いいの…？

しっ
確認
秘所
取り
外す
淫具
を
ため
に

そ、そんなに
近くで…
見ないでよ…

七音は顔から
火が出そうなほど
赤面している

うう……

近くで見ないと
検査にならないだろ

……想像より
もっと大変なことにな
っているじゃないか

ちゃんと指でも
検査しないと

ズッ

ヌ
チュ

んうう
うううっ…!!

うーん、
こりや
大洪水だな

あ、あんなに
しつこく悪戯
されたんだから…

……
当然でしょ

本当に…
それだけか？



俺に見られて…

興奮してたんじゃないのか？

んはあ…

それも…ある、かも…



ふくらみきつて包皮から剥け出た陰●は、ひくひくと脈動している

まるで愛撫をねだるかのようー

ヌチュ

ヌチュ



指使いをさらに激しくしてやる

ゲチュ

ゲチュ

んんっ…
んんう…



あそこの奥にまで…指が…

いやらしい目で覗かれて…

変な気分になっちゃったかも…

お兄ちゃんに…





待ちに待った
昼休み

ど、
どう……
かな……?

はい

あーん……



うん……
すごく、
おいしい

味も彩りも
栄養バランスも
全てが
ハイレベルだ

よかった……

七音の顔は、
ほんのりと
紅潮している



えっち抜きの
普通の
いちやいちゃも
……良い!!

こんなことは
嬉しいこと
……ないっ!

ほら、
もう一口

おいしい……

七音に
食べさせてもらっ
ことで、

より一層おいしく
感じられる



こ、こんな
ところで……

こんな
格好で……

こんなところで、
こんな格好でするから
お仕置きになるんだろ

んああ……

あそこ
に……

ロ●ターや
指よりも

んっ……
んはああ……

本物の方が
いいだろ？

お兄ちゃん
のが……

あああつ

そ、そんな
恥ずかしい
こと……

聞かないでえ
……んっ……

七音の口は
答えを拒んだが

息づく下の唇は
正解を
露わにしていた

あああ……

あひっ

ひいい……



ずっと
これが、

欲しかった
んだろ？

んあ…っ

グッ
グッ

グッ
グッ

ズボンにシミが
できそうなほど

大量の蜜汁が
溢れ返っている

はああ…っ

あんっ…
あんっ…

そっ

に…
そう

決まってる
でしょ…



グッ
グッ

グッ
グッ

電車や階段では
満足できなかった
俺のモノが

待ちに待った
快楽を貪り、

びくびくと
のたうち
回っていた

んんう

お兄
ちゃんの
がつ…

良すぎてっ



はあああ…
あああ…

電車
ではっ

我慢できた
けど…

声…
出ちゃい
そう…

俺も、
ずっと

我慢してた
から…ッ

んう…っ

ああ…
んっ…!



七音が
二度の絶頂に
達した一方で、

ブッ

ブッ

……うう……

お兄ちゃんの
……いい……

くっ……
うっ……

……んあぁ……
……あんっ……

あああ……
んあああ……



俺は朝から
二度ものお預けを
食らってた

ブッ

はあああ……
ああんっ……

男の象徴には

溶岩のごとく
煮えたぎった牡欲が
溜まっている

わたし……
もう……

んあ……

いくっ……
いきそうっ……

お兄ちゃん
ので……っ

俺もだ……ッ

我慢の限界は
とうに超えていた

あっ…
んはああ…

お兄ちゃんのが…
あそこの奥に…

溜め込んだ
濁流が

どくどくと
注がれ続ける

んはあああ
あああ…!!

七音っ…!!

ビク

ビク



うれしい…

朝から…
三回も…
いかされ…
ちやった…



はああ!?

無理無理
むりむりっ!

絶ッッッ対に
無理いっ!!

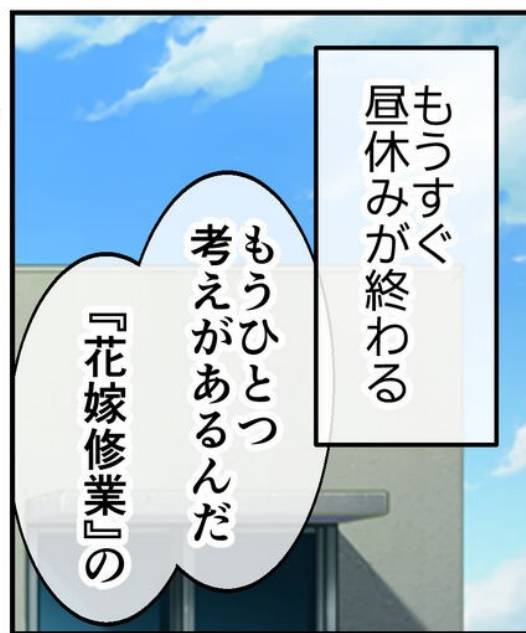
拒否されて
当然の内容だ

しかし、
俺は食い下がる

『花嫁修業』を
完成させるために

これは絶対に
必要なんだよ…!

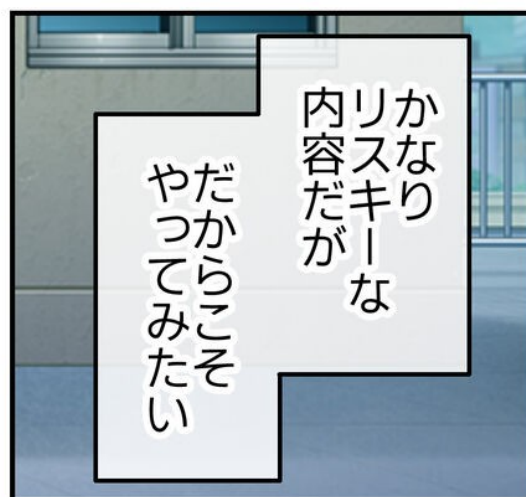
そっ…そっ…
そんなこと…っ



もうすぐ
昼休みが終わる

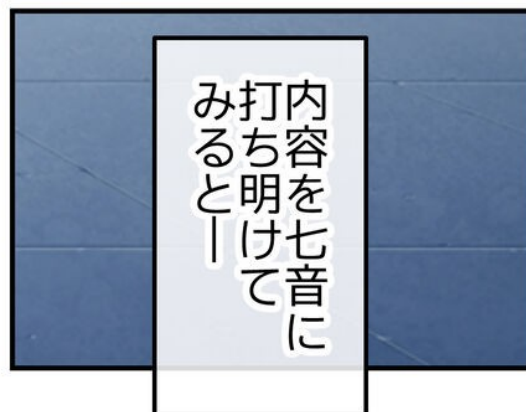
もうひとつ
考えがあるんだ

『花嫁修業』の

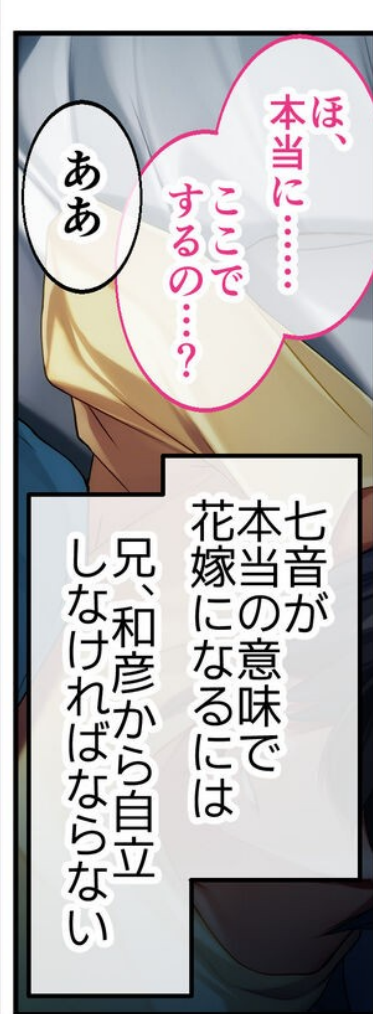


かなり
リスキーな
内容だが

だからこそ
やってみたい



内容を七音に
打ち明けて
みるとー





恥ずかしさを
訴えつつも

七音の指は
止まらない

んっ…



動きは一層
激しくなっていく

んんっ…

クチュ

ズチュ

んはああ…



んあ…

恥ずかし
すぎて…

変に
なっちゃい
そう…!!

どうだ

んんう…

和彦の前で
すると

いつもより
気持ち良い
だろ?

そっでいい

七音はもう
『花嫁』に
なったんだと

兄につけて
見せつけて
やれ…!!



恥ずかしい
のに…

こんなの
恥ずかしい
のに…!!

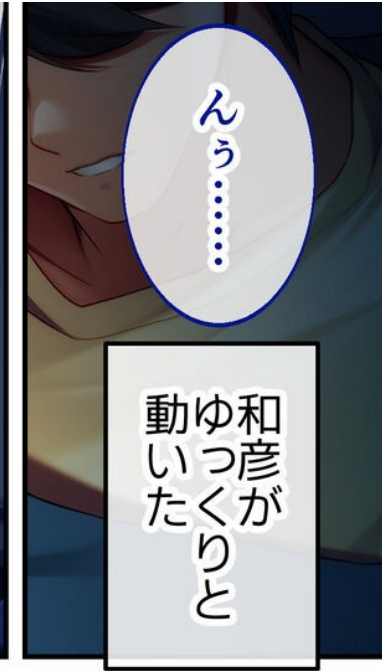
ハア

ハア



!!

まずいつ!!
起きたか!?



んう……

和彦が
ゆつくりと
動いた



汁の音で和彦が
起きちゃうかもな

ヌチュ

んう……
んっ……

そっ、
そんなに
音を立てて
ないから……っ

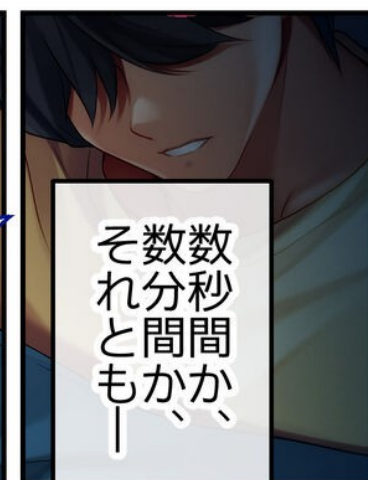


……んう……
七音え……

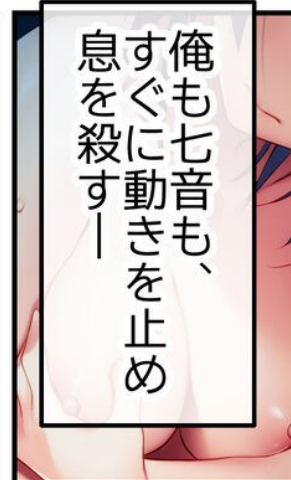
……スウ……



んう……



数秒間か、
数分間か、
それとも――



俺も七音も、
すぐに動きを止め
息を殺す――



……こんな
状況で……

オ●ニー
して……

七音は軽く
放心していた

……わたし……
いっちゃった……

お兄ちゃんの
前で……

……いっちゃった
……

……よし、
ここからが
本番だ



和彦は
再び寝息を
立て始めた

……ほっ

……お、脅かし
やがって……



ううう…っ
んくうう…!!



う、
うそっ

こんな
ところで
……っ

和彦が
寝入っ
ているの
を
確認し
た俺は

七音を
後ろか
ら抱き
上げ
右脚を
抱え—



お兄ちゃん
の前で
なんて

恥ずか
しい…!!



恥ずかしい
……けど、
気持ちいい
だろう?

別に……
お兄ちゃん
の前だから

感じてるっ
てわけじゃ……

んううっ



俺は
すごく
いいよ

和彦の
前で
七音を
抱けて

……っ
!!



んあ……
あっ……
はあ……
あ……

んはああ
あああ……!!

うう……
くっ……

んっ……
んん……
う……

お兄ちゃん
のが……

奥に……
たくさん……

出してもらっ
ちゃった……

これで……
また一歩、
かなり花嫁に
近づいたわね……

出してなお
の硬いままは、
俺のモノは、

本格的な
抜き差しを
再開した

あっ……
んっ……
あんっ……

また……
するの……?

そう言う七音も、
兄の前での二回目を
拒もうとはしなかった

『花嫁修業』を
始めてから
数ヶ月が過ぎた

今もまさに、

俺と七音は
『花嫁修業』の
真っ最中だ

そこに、
和彦から電話が
かかってきた

もしもし

お兄ちゃん…
どうしたの？

今？

どこって
別に…

俺の家になら
いるんだから
安心しろ

こんな光景
見たら

卒倒する
だろうな

はあっ…

ちよつと…
風邪気味かも

んっ…

大丈夫…っ
だから…

そんなに
ひどい風邪
じゃ…

ない…
から…っ



ちよつと
わかんない…

…?
帰る時間



…夜には
帰るから…

『何で?』
って…

ハア



適当に
済ませて…

あ、…夕飯、
作れないかも
しれないから

ズッ



もう…
お兄ちゃん
ったら…

心配性
なんだから

んはあ…
んっ…

…ふうう…
んんう…

ブッ

ブッ

私だって…

もう子どもじゃ
ないんだから…



それでこそ
花嫁だ

んっ!

はあああ…
…ああっ!

兄の世話より、
花婿の性欲に
応えるべきだよな

今のは…
ちよつと

体調が
悪くて

心配するな
和彦

七音は健康
そのものだ

女子として、
まさに健康的な
行為をしている



そ

それ
じゃっ
切るね…っ

いそがしい
から…



んっ…
んあああ…

はああ
あああ…

ああ…

んっ…

んはああ…
んんううう…!!



七音はスマホを
手にしたまま、
うっとりとした
顔で浸っている

なんでも
ない…
ちよつと
喉の調子が…

ハッ

通話中の七音に
俺は更に
追撃をかける

…んんツ!!

ズ
ブ
ズ
ブ

と、
とにかく…
もう切るね

はああ…っ

んっ…
んんうう…!!

帰りな
る遅
くなるっ

伝え
たか
ら…

俺は七音を
抱きしめ、改めて
腰を動かし始めた

だから…
もう一回…



借り物か…
汚したら
まずいな

…中に出
すか

ちよつと!

ジュー



そしてー

俺と七音は
恋人として
付き合い始め
た

借りて
来ちゃった

家庭科部の
友達から…

もちろん、
結婚を前提に



もお…っ

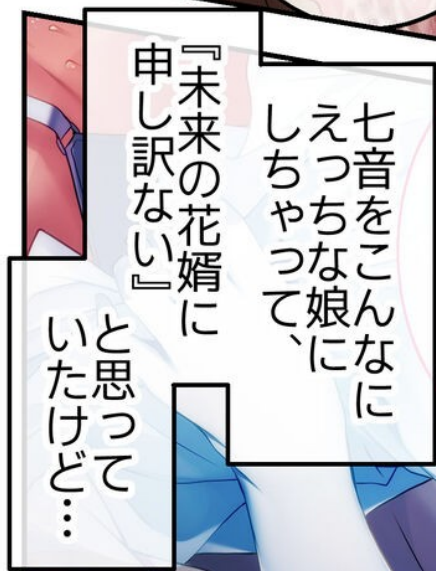
んはあああ…
あああ…

お兄ちゃん
いっぱい、
出すから、

垂れちゃう
かもしれない
でしょ!

少しくらいよ
わからないよ
どっちも
白なんだから

ジュー



俺が貰うなら
問題ないよな...？

はああああ
あああああ
あつ！

ビク

わたし...
もう.....

いくっ！

いっっちゃうっ

ビク

七音...

...まだ、
できるだろ？

うん...
うん...

ド
ン

ド
ン

あっ……
はあああ……

ああん……

ドレス姿の七音、
きれいだよ

うれしい……

お兄ちゃんに
そう言っ
てもらえて……

私も……
ドレス姿の自分を
見てると……

ずっと……

あああ……
んあああ……

『鏡の前で
花嫁衣装を着た姿を
一緒に楽しみたい』

最初は恥ずかしいと
抵抗した七音も、
楽しんでくれている

ズ
チュ
ズ
チュ

ブッ

ズン

ブッ

和彦にも
見せてやりたいな

ウェディング
ドレスを着た
七音の姿を

俺と
繋がった
七音を

それは……
だめえ……

こんな姿……
見せられないっ



んっ……

あんっ……

はあああ……

ねえ……
お兄ちゃん

私……
ちゃんと
花嫁に
近づいてる
かな……

花嫁に
ふさわし
い女にな
っている
……？



もちろん
七香はもう
十分に花嫁に
ふさわしいよ

心からそう思う

料理もできて、
可愛くて、

花婿のために
尽くしてくれる

最高の
花嫁だよ！

……っ！！



愛おしさ
と衝動にまかせて、

俺は一心不乱に
腰を振る

お兄ちゃんに
そう言っ
てもらえて……

すごく
嬉しい……！！

うれしい
っ……！！

また……
いきそう……

俺もだ……！

ひんあ……
ひいっ……

ブッ

ブッ



©アンモライト